



荻岳から阿蘇五岳を望む

熊本と大分の県境にそびえる荻岳は、山頂に立てば360度の展望が開け、大パノラマを満喫することができます。今回は波野の荻岳周辺の文化財について紹介します。

## 「荻岳周辺の文化財」

委員 古澤一丸

方位盤 (市指定建造物)

荻岳の展望 (市指定名勝)

荻岳は標高843mあり、東に阿蘇五岳、北に九重連山、南に祖母連山などを一望におさめる周囲眺望の大変いい山であり、平成8年には新熊本百景として「荻岳からの大パノラマ」が選出されています。地域では長い間放牧場として利用され、春の山菜狩りの名所にもなっています。

山頂には方位盤・知事の塔(広報あそ5月号参照)・高田保馬の歌碑のほか、稲荷神社を始め多くの神が祭られています。山麓の登口には荻神社や、4月から11月の第1日曜日(10月除く)に中江岩戸神楽の定期公演がある「中江神楽殿」があります。

方位盤は、肥後藩の東部の見張台として、のろしを上げるために設置されたものと伝えられています。昭和57年3月には、保存のため周囲をコンクリートで巻いています。



荻神社



方位盤

荻神社 (市指定建造物)

地域の人々の心のよりどころである荻神社は、阿蘇神社の末社として健磐龍命たけいわたつのみことほか五神をまつり、別名六社大明神とも称せられています。創建は諸説ありますが、欽明天皇の時代(約1,400年前)に塩井川上流に祭ったのが始まりのようです。

天正14年(西暦1586年)の島津・大友の戦乱の際に兵火にかけられ、時の神職今村帯刀はお宮が滅びるのを恐れ、御神体を改彫し現在地に神社を造営したと伝えられています。神殿・拝殿は、彫刻や装飾の形状から江戸時代後期頃の造営と考えられています。

また、境内には御神木の大きな二又杉がありましたが、平成3年9月27日の台風19号で1本が倒れ、残りの1本も倒木の危険性があつたため伐採されました。

※荻岳は、阿蘇市波野支所から車で約10分です。案内看板が出ていますので、「確認下さい」。